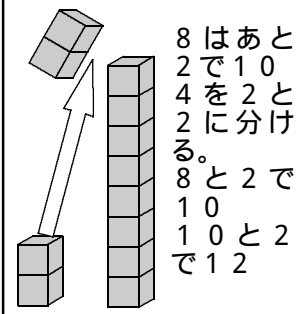
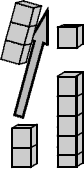


4. 本時について (3/8)

(1) ねらい：被加数が加数より小さい場合の計算の仕方を考える活動を通して、加数を10にする方法があることに気づき、加数を10にして計算することができる。

(2) 本時の展開例

段階	ねらい	主な学習活動	みとどけ()と指導・援助(・)
つかむ (10分)	問題から式をつくり、被加数を加数より小さいことに気付くことができる。	<p>問題 たまごが ちいさい かごに 4こ、 おおきい かごに 8こ あります。 あわせると なんこに なるでしょう。</p> <p>1 問題から式をつくり、式を比べて課題を見付ける。 ・式は、$4 + 8$です。 ・わけはあわせるとあるから、たし算になります。 ・これまでは前の数が大きかったけれど、今日は後ろの数の方が大きいです。</p> <p>$4 + 8$を ぶろっくを つかって けいさんのしかたを かんがえよう。</p>	既習の式と比べることができたか。 ・既習の式を黒板に書いて示し、「違いはどこかな」と問いかける。
しらべる (10分)	$4 + 8$ の計算の仕方を10のまとまりをつくらせて考えることができる。	<p>2 $4 + 8$の計算の仕方をブロックを操作と式で考える。 ・10のまとまりをつくれれば、10といくつで答えがすぐに見付かるよ。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><加数分解></p>  <p>$4 + 8 = 12$</p> <p>10 6 2</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><被加数分解></p>  <p>$4 + 8 = 12$</p> <p>2 2 10</p> </div> </div>	10のまとまりをつくらせて計算の仕方を考えているか。 ・できない子には、「10のまとまりをつくらせてごらん」と助言し、できたことを認める。 ・できた子には、「10のまとまりをつくらせて計算できたね」と価値付け、「どうして8(もしくは4)を10にしたのかな。」とその根拠を問いかける。
みつける (10分)	計算の仕方を交流して、加数を10にする方法があることに気付く。	<p>3 計算の仕方を交流して、2つの方法の同じところや違うところを見付ける。 ・どちらも10のまとまりをつくらせて計算しているね。 ・(加数分解)は、これまでの方法と同じやり方だからいいと思います。 ・(被加数分解)は、ブロックを2個動かせばいいので簡単に計算ができます。</p>	2つの計算の仕方があることを理解する。 ・黒板に動かしている途中のブロックの様子を示したり、再度やってみせてから、「どちらが簡単であるか」と問いかける。
あじわう (15分)	被加数分解で計算することができる。	<p>4 別の式を被加数分解で繰り返しペアで練習をする。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><問題></p> <p>$4 + 7$はいくつかな。</p>  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><答える></p> <p>$4 + 7 = 11$</p> <p>1 3 10</p> <p>まず、7はあと3で10です。次に、4を3と1に分けます。それから、3と7で10です。だから、10と1で11です。</p> </div> </div> <p>5 計算練習をする。 ・ $3 + 8$ ・ $4 + 7$ ・ $5 + 9$ ・ $3 + 9$</p>	加数を10にして式でお話しながら計算することができる。 ・できない子には、「後ろの数を10にするよ」と助言したり、それでもできないときにはブロックを一緒に操作したりする。